

平成25年度

滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書



滝川市いじめ根絶シンボルマーク最優秀作品

平成26年11月

滝川市教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、その報告書を議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。また、その際、客観性を確保する観点から、教育委員会以外の学識経験者による知見の活用を図ることとされています。

滝川市教育委員会は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、学識経験者、保護者、関係団体から成る「滝川市教育委員会の権限に属する事務の外部評価会議」からご意見等をいただきながら、平成24年度から執行している「滝川市教育推進計画」に基づき、教育委員会の事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、報告書を作成いたしました。

この点検・評価報告書を通じて施策の効果の検証と改善を図りながら、教育施策を着実に推進していきたいと考えていますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成26年11月

滝川市教育委員会

目 次

1 教育委員会の活動状況について

(1)教育委員会の会議の開催状況	1
(2)条例・規則等の制定、計画等の策定状況について	5

2 教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書

(1)点検・評価の視点	6
(2)点検・評価の流れについて	6
(3)評価の方法について	6
(4)点検・評価項目について	7
I-1 確かな学力の育成	8
I-2 豊かな人間性の育成	9
I-3 健やかな体の育成	10
II-4 意欲と指導力のある教職員の育成	11
II-5 安全安心な学校づくりの推進	12
II-6 市立高等学校の充実	13
II-7 特色と魅力のある学校づくりの推進	14
III-8 特別支援教育の推進	15
III-9 不登校等問題行動のある児童生徒への支援の充実	16
IV-10 地域の教育力を活用した家庭・地域への支援の充実	17
IV-11 子どもに関わる施策や活動との連携	18
V-12 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進	19
V-13 健康な心と体を養うスポーツ活動の推進	20
V-14 文化・芸術活動の創造・育成の支援	21
V-15 文化財保護・活用の推進	22
V-16 図書館活動の充実	23
V-17 博物館活動の充実	24
V-18 社会教育施設の整備充実	25

1 教育委員会の活動状況について

(1)教育委員会の会議の開催状況

滝川市教育委員会の会議は原則として公開で、毎月1回を基本として開催するほか、必要に応じて臨時会議を開催しています。また、滝川市教育委員会が所管する事項について調査及び研究を行うことにより様々な教育課題に対する活発な議論を行うため、滝川市教育委員協議会を設置しています。

①教育委員会議

13回開催しました。

H25.04.24	報 告	①3月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ②平成25年度入学式における国旗・国歌の実施状況について ③滝川市総合福祉センターの利用者説明会について ④江部乙市民プールの廃止について ⑤スポーツ健康増進施設「まち自慢のパークゴルフ場」の概要について ⑥滝川市指定文化財に係る諮問について ⑦「生誕110年記念 岩橋英遠展」実行委員会の設立について ⑧滝川第三小学校改築事業について ⑨たきかわコスモスマラソン2013実行委員会の設立について
	議 案	議案第1号 委員長職務代理者の指定について 議案第2号 滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則 議案第3号 滝川市就学指導委員会議委員の選出について 議案第4号 滝川市文化財保護審議会委員の委嘱について
H25.05.24	報 告	①教育部補正予算について ②車両損傷事故による損害賠償額の決定について ③滝川市立滝川第三小学校改築工事の工事請負契約の締結について ④4月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ⑤財団法人滝川市生涯学習振興会の経営状況について ⑥まち自慢のパークゴルフ場基本運営計画(案)について
	議 案	選挙第1号 委員長の選挙について 議案第1号 委員長職務代理者の指定について 議案第2号 滝川市水泳プール条例の一部を改正する条例
H25.06.24	報 告	①第2回市議会定例会一般質問について ②5月分児童生徒の教育相談等における状況報告について
	議 案	議案第1号 滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則 議案第2号 滝川市立学校職員服務規程の一部を改正する規程

H25.07.26	報 告	①いじめに関する実態調査のアンケート結果について ②6月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③平成25年度「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」の採択について ④滝川市民「生涯学習・活動」に関するアンケート調査について ⑤社会教育施設の利用状況について
	議 案	議案第1号 滝川市立学校管理規則の一部を改正する規則 議案第2号 平成26年度に使用する小学校用教科用図書の採択について 議案第3号 平成26年度に使用する中学校用教科用図書の採択について
	その他	①外国語指導助手の採用予定について
H25.08.28	報 告	①教育部補正予算について ②車両損傷事故による損害賠償額の決定について ③7月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ④社会教育施設の指定管理者の公募について ⑤石狩川河川敷パークゴルフ場(仮称)実施設計業務について
	議 案	議案第1号 道費負担教職員の任免に係る内申について
H25.09.27	報 告	①第3回市議会定例会一般質問について ②8月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③全国学力・学習状況調査結果の概要について ④滝川市道德教育推進事業「道德に関わるアンケート」の結果について
	議 案	議案第1号 学校職員の処分内申について
H25.10.24	議 案	議案第1号 教科用図書採択地区の変更について
H25.10.30	報 告	①9月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ②北海道人造石油株式会社滝川工場関係資料の文化財への指定について ③社会教育関連条例の改正について ④石狩川河川敷パークゴルフ場設基本計画(案)について
	議 案	議案第1号 公の施設の指定管理者の指定について(音楽公民館) 議案第2号 公の施設の指定管理者の指定について(滝川市青年体育センター他)
H25.11.22	報 告	①第4回市議会定例会教育部補正予算について ②10月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③全国学力・学習状況調査の結果について ④照明設備損傷事故による損害賠償額の決定について ⑤滝川市総合福祉センター入居団体の移転先について ⑥社会教育委員の委嘱基準設定に伴うパブリックコメントの募集について

	議 案	議案第1号 滝川市総合福祉センター条例等を廃止する等の条例 議案第2号 滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価報告書について 議案第3号 「北海道人造石油株式会社滝川工場関係資料」滝川市指定文化財の指定について
H25.12.26	報 告	①第4回市議会定例会一般質問について ②11月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ③就学指導委員会議の答申について ④成人式の実施について
	議 案	議案第1号 滝川市総合福祉センター条例施行規則等を廃止する等の規則
H26.01.29	報 告	①12月分児童生徒の教育相談等における状況報告について
H26.02.20	報 告	①第1回市議会定例会教育部補正予算について ②インフルエンザ様疾患発生について ③滝川市立学校屋内運動場等の非構造部材の耐震化について ④1月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ⑤出願状況について ⑥総合福祉センター入居団体事務所の移転先について
	議 案	議案第1号 平成26年度教育行政執行方針について 議案第2号 平成26年度教育予算について 議案第3号 滝川市子どもの読書活動推進計画について 議案第4号 滝川市子どものいじめの防止等に関する条例 議案第5号 滝川市社会教育委員設置条例 議案第6号 消費税及び地方消費税の税率の引上げに伴う関係条例の整備等に関する条例 議案第7号 滝川市立高等学校の入学検定料等徴収条例の一部を改正する条例 議案第8号 学校職員の処分内申について
	その他	卒業式について
H26.03.28	報 告	①平成26年第1回市議会定例会代表質問等について ②インフルエンザ様疾患発生について ③2月分児童生徒の教育相談等における状況報告について ④平成25年度卒業式における国旗・国歌の実施状況について ⑤平成25年度卒業生進路決定状況について
	議 案	議案第1号 滝川市いじめ問題対策連絡協議会規則 議案第2号 滝川市いじめ防止専門委員会規則 議案第3号 滝川市社会教育委員の会議規則 議案第4号 消費税及び地方消費税の税率の引上げに伴う関係規則の整備等に関する規則 議案第5号 滝川市立学校管理規則の一部を改正する規則

		議案第6号 滝川市立高等学校の入学検定料等徴収条例施行規則等の一部を 改正する規則 議案第7号 道費負担教職員の任免に係る内申について 議案第8号 滝川市立学校教員及び滝川市教育委員会事務局職員の任免につ いて
	その他	①入学式について ②辞令交付式

②教育委員協議会

17回開催しました。

開 催 日	調 査 及 び 研 究 内 容
H25.04.24	・体罰に係る実態把握について ・学校での遺体の発見について
H25.05.24	・体罰に係る実態把握について ・学校の魅力づくり事業に係るプレゼンテーションについて
H25.06.10	・学校の魅力づくり事業に係るプレゼンテーションについて
H25.06.24	・学校の魅力づくり事業に係る採択について
H25.07.26	・学校の魅力づくり事業に係る採択について ・全国学力・学習状況調査の結果公表の取扱い等に関するアンケートについて
H25.08.28	・滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価について ・学校の魅力づくり事業に係るプレゼンテーションについて
H25.09.05	・滝川市教育委員会の活動状況に関する点検・評価について
H25.09.27	・図書館での問題行動利用者への対応について ・滝川市いじめ防止条例の内容について
H25.10.24	・平成25年度北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会の感想について ・滝川市いじめ防止条例の内容について ・中学校及び小学校の事故報告について
H25.10.30	・中学校の事故報告について
H25.11.28	・市長との懇談会での基本方針について ・滝川市子どものいじめ防止対策条例(仮称)の素案について
H25.12.13	・滝川市子どものいじめ防止対策条例(仮称)の素案について
H25.12.26	・平成26年度予算要求の概要について
H26.1.24	・滝川市立小・中学校の校長・教頭の住宅について ・滝川スポーツクラブ「サンテ」のプールの工事について ・滝川市子どものいじめ防止条例(案)について
H26.1.29	・滝川市子どものいじめ防止条例(案)について ・滝川スポーツクラブ「サンテ」のプール工事の支援に係る協議結果について ・平成26年度教育部予算の概要について

H26.2.17	・滝川スポーツクラブ「サンテ」のプールの再開について ・滝川市子どもの読書活動推進計画(案)について ・平成26年度教育行政執行方針(案)について ・滝川市子どものいじめの防止等に関する条例(案)について
H26.3.28	・体罰に係る実態把握について

(2) 条例・規則の制定状況等について

平成25年度に制定又は改正された教育関係条例の数は6件、教育委員会規則の数は10件です。(施行年月日がH25.4.2～H26.4.1のもの)

① 教育関係条例等

題 名	施行年月日
滝川市水泳プール条例の一部を改正する条例	H25.7.1
滝川市総合福祉センター条例等を廃止する等の条例	H26.4.1
滝川市子どものいじめの防止等に関する条例	H26.4.1
滝川市社会教育委員設置条例	H26.4.1
消費税及び地方消費税の税率の引上げに伴う関係条例の整備等に関する条例	H26.4.1
滝川市立高等学校の入学検定料等徴収条例の一部を改正する条例	H26.4.1

② 教育委員会規則

題 名	施行年月日
滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則	H25.4.24
滝川市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則	H25.6.24
滝川市立学校管理規則の一部を改正する規則	H25.7.26
滝川市総合福祉センター条例施行規則等を廃止する等の規則	H26.4.1
滝川市いじめ問題対策連絡協議会規則	H26.4.1
滝川市いじめ防止専門委員会規則	H26.4.1
滝川市社会教育委員会議規則	H26.4.1
消費税及び地方消費税の税率の引上げに伴う関係規則の整備等に関する規則	H26.4.1
滝川市立学校管理規則の一部を改正する規則	H26.4.1
滝川市立高等学校の入学検定料等徴収条例施行規則等の一部を改正する規則	H26.4.1

2 教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について

(1) 点検・評価のための視点

点検・評価に当たっては、次の視点を持って進めます。

① 市民の視点

市民やサービスの受け手、関係する企業や団体などの公的サービスに対するニーズの多様化や変化を的確に把握し、迅速に対応できているか、お客様の視点に立って仕事のあり方を見直します。

② 職場活性化の視点

職員が自らの仕事のあり方について評価することで、仕事を客観的に見つめ直し、コスト意識やサービス精神の改善につなげるとともに、一人ひとりが組織目標を常に考え、柔軟で効率性を考えた取組を進めます。

(2) 点検・評価の流れについて

① 点検・評価シートの作成

事業・事務の成果を分析・検証するために点検・評価シートを作成します。



② 外部評価の実施

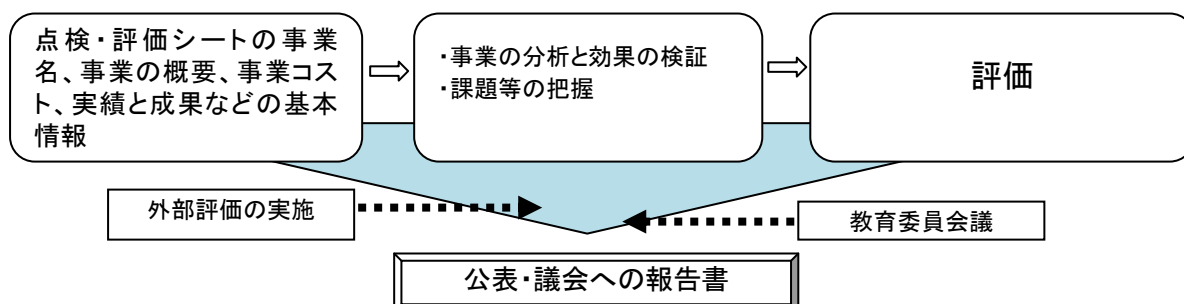


主管課長が作成した点検・評価シートに基づき、学識経験者等と各課とのヒアリングを実施し、内部評価に対して客観的な意見を述べていただきます。

③ 点検・評価の報告書作成

(3) 評価の方法について

① 点検・評価のあらまし



②項目別評価

事業の成果を測定するとともに課題を把握し、より良い事業の展開に向けた改善へとつなげていくため、次の2つの視点で評価を行いました。

評価の視点

評価の視点	項目の説明
期待どおりの効果があったか	事業の目的を達成するために行った事業について、効果等を分析・検証した結果、期待する成果があったか。
施策の目的を達成するため、事業の見直し等の余地があるか	上記について、より成果を上げるため、事業の見直しを行う必要があるか。

ランク	内 容
A	期待どおりの成果が得られ、今後も事業を継続する
B	ほぼ期待どおりの成果が得られたが、さらなる発展のため事業を見直す余地がある
C	概ね期待した成果は得られたが、事業の見直しが必要である
D	期待する成果が得られず、廃止も含めた見直しが必要

(4) 点検・評価項目について

平成24年度からは「滝川市教育推進計画」に基づき点検・評価を行いました。

施策項目一覧

- I-1 確かな学力の育成
- I-2 豊かな人間性の育成
- I-3 健やかな体の育成
- II-4 意欲と指導力のある教職員の育成
- II-5 安全安心な学校づくりの推進
- II-6 市立高等学校の充実
- II-7 特色と魅力のある学校づくりの推進
- III-8 特別支援教育の推進
- III-9 不登校等問題行動のある児童生徒への支援の充実
- IV-10 地域の教育力を活用した家庭・地域への支援の充実
- IV-11 子どもに関わる施策や活動との連携
- V-12 「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進
- V-13 健康な心と体を養うスポーツ活動の推進
- V-14 文化・芸術活動の創造・育成の支援
- V-15 文化財保護・活用の推進
- V-16 図書館活動の充実
- V-17 博物館活動の充実
- V-18 社会教育施設の整備充実

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	I-1	施策名	確かな学力の育成
------	-----	-----	----------

目的 事業の	学ぶ意欲を高め、望ましい学習習慣を身に付けさせるとともに、自ら学び、自ら考え行動する力を育み、身につけた知識・技能を活用する能力の育成を図ります。そのため児童生徒の学力の実態を把握し、指導方法の改善を図るなど、個に応じたきめ細やかな学習指導を行います。
主要事業 今年度の	①少人数指導や習熟度に応じた指導の推進 ②放課後学習、家庭学習など学習習慣化の推進 ③少人数学級実践研究事業(小学校3・4年生35人学級)の推進 ④学びサポーターの全校配置 ⑤外国語指導助手を活用した外国語教育の充実
事業の実績と分析	①少人数指導や習熟度に応じた指導の推進・・・習熟度を各学校が取り入れ、算数数学の基礎基本の定着を図ることができ指導の成果が見られた。25年度⇒TT指導全体時数7,247時間のうち習熟度実施時数3,021時間 41.7%の実施率 配置数 小学校6人 中学校3人 ②放課後学習、家庭学習など習慣化の推進・・・「家庭学習の手引き」等、各学校が作成し家庭に配付して活用を図り、家庭での学習時間の増加につながった。 ③小学校3・4年生の35人学級・・・きめ細かい見守りと指導の充実ができ、また教師が子どもと向き合う時間が増え個別の支援に成果があった。25年度⇒第一小3年生・第二小3年生・東小4年生 ④学びサポーターの全校配置・・・困り感のある子の学習支援や発達に課題のある子など個別の指導と支援をはかり、担任と連携により安定した学級運営と指導支援の向上に成果があった。25年度⇒17人配置 ⑤外国語指導の充実・・・英語教師のアシスタント役として5名配置して、英語教育の充実を図った。小学校5・6年の英語活動にも積極活用ができた。(24年8月、3名から5名に増員)
課題	①少人数指導や習熟度に応じた指導の推進・・・複数配置や習熟度配置の際の指導法の一層の充実が必要 ②放課後学習、家庭学習など習慣化の推進・・・学校と保護者が連携した取り組みの充実が必要 ③小学校3・4年生の35人学級・・・5・6年生に40人学級に戻ることから、少人数指導の充実が必要 ④学びサポーターの全校配置・・・発達に課題のある子、相談室登校の子への支援策の充実が必要 ⑤外国語指導の充実・・・効果的な活用を進め、成果等の検証を行うことが必要

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 学力向上の施策や滝川独自の人的配置の取組などの施策により、基礎基本の定着も見られる結果があった。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 少人数学級実践事業の対象学年や学びサポーターの配置など施策の効果的な実施を図りたい。

事業の今後の方向性	来年度も引き続き施策を継続し、学力の向上としての成果が上がるよう事業を推進する。 ■拡充 □縮小・統廃合 □質的向上 □スピードアップ □検証 □継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	I -2	施策名	豊かな人間性の育成
------	------	-----	-----------

目的 事業の	子どもの発達段階に応じた、規範意識や公正な判断力、粘り強くたくましく生きる力、自他の生命を尊重する心、共に助け合って生きることの体得など、基本的な倫理観を身に付けさせるとともに、郷土に愛着を持ち、郷土で育ったことに幸せと誇りを持って語ることができる、日本や世界で活躍する子どもを育成します。
主要 事業 今年度の	①道徳教育の推進 ②心の教育推進事業の充実 ③読書活動の充実
事業の実績と分析	①道徳教育の推進・・・児童生徒に生命を大切に作る心や思いやりの心、倫理観や規範意識など道徳教育の充実のため、道徳の研究授業や実践発表会を通じて教職員の指導資料の発行を行い、その充実が図られた。 25年度⇒5校の研究授業と実践発表の資料集の発行と全教職員への配布 ②心の教育推進事業の充実・・・いじめや不登校など児童生徒の問題行動の実態把握、早期発見・早期対応を図るための体制の充実が図れた。また、学校配置のスクールカウンセラーが教育相談など効果的な活動が出来た。 25年度⇒学校訪問事業年2回実施、スクールカウンセラーの相談件数 小学校599件(24年度554件)・中学校536件(24年度482件) ③読書活動の充実・・・図書館と連携して本に触れる機会を増加させ、学校の朝読書や学級文庫など読書活動の充実に成果があった。
課題	①道徳教育の推進・・・道徳授業の内容が一層充実するよう実践研究や教材開発の支援を行う。 ②心の教育推進事業の充実・・・いじめや不登校等問題行動の対応にあたり、学校と教育委員会が連携して実態把握や子どもの個別の予防対策など、きめ細かい取り組みが必要である。 ③読書活動の充実・・・学校図書館の資料整備の推進及び司書教諭等との一層の連携を図り、朝読書等本に親しむ環境づくりを推進する必要がある。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 「いじめはあってはいけないこと」の意識化は、100%になるよう道徳指導や学校における児童生徒の主体的活動を一層支援し、推進しなければならない。
B	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか いじめ実態調査は、アンケートや個別の教育相談を通じて把握しているが、さらに子どもたちからの情報や訴えを的確に得るための相談体制づくりを充実することが必要である。

事業の今後の方向性	来年度も引き続き実施し、さらに成果を上げるよう事業を推進する。 ■拡充 □縮小・統廃合 □質的向上 □スピードアップ □検証 □継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	I-3	施策名	健やかな体の育成
------	-----	-----	----------

目的	事業の	規則正しい、望ましい生活習慣の定着や豊かで健全な食生活の実現、運動や遊びを通じた体力の向上、歯の健康を守るための予防活動など、健康で安全な生活を営むための自己管理能力のある子どもの育成を推進します。
主要事業	今年度の	①食育の推進(バランスの良い栄養摂取と食事マナーを身につけさせる、生産者等を通して地場産品の学習や交流給食の実施) ②歯科など保健指導の推進(むし歯の予防、小学校におけるフッ化物洗口の全校実施)
事業の実績と分析		①食育の推進・・・各小学校において、農業生産者を招いた交流給食を実施したり、たまねぎやアスパラ、完熟トマト、リンゴ等地場産食材を積極的に活用した献立を立て献立だよりにより周知するなど、食育指導に努めた。しかし、滝川産の特産品を知っている割合や朝食の摂取割合に十分反映されていないことから、健全な食生活の充実を図るため引き続き食育指導を強化していく。 ②歯科など保健指導の推進・・・24年度より市内全小学校においてフッ化物洗口事業が開始となり、25年度においては、目標率の達成はできなかったものの引き続き実施率が向上しており、事業の効果が期待できる。
課題		①食育の推進・・・食育の推進については、給食の時間や学級活動等における取り組みを促進するとともに子どもに規則正しい生活環境を定着させるため、就学前からの取り組みを関係機関と連携し充実させることが大切である。 ②歯科など保健指導の推進・・・フッ化物洗口事業については、24年度中途からの全小学校での実施のため、効果の検証は現時点では困難であるが、毎年度の歯科検診結果等により、事業効果の検証を進めていく必要がある。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか フッ化物洗口事業は全小学校での実施を継続し、実施率も前年度を上回っているほか、食育の推進についても概ね期待どおりの効果が得られた。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 引き続き実施する。

事業の今後の方向性	来年度以降も継続して食育の推進及びフッ化物洗口実施率の向上に取り組み、平成26年度におけるフッ化物洗口実施率の80%達成を目標とする。また、体力・運動能力の向上を図るため、小・中学生の運動能力の状況を適切に把握し体育指導に活かし体力向上につなげていく。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅱ-4	施策名	意欲と指導力のある教職員の育成
------	-----	-----	-----------------

目的 事業の	意欲のある教職員を育て確保するため、各種研修会への参加を促進させるとともに、授業力や指導力など資質が高められる研修会を実施し、教職員が子どもや保護者との信頼関係を深め、より良い教育ができる環境づくりを推進します。
主要 事業 今年度の	①指導主事の学校訪問指導の充実 ②ICTを活用した教職員の授業力の向上 ③教職員研修・研究の充実
事業の実績と分析	①指導主事の学校訪問指導の充実・・・指導主事の学校訪問指導の充実・・・指導主事が学校の経営指導や授業実践についての助言を行い、学校教育の充実と教師の授業力の向上が図れた。 ②ICTを活用した教職員の授業力の向上・・・児童生徒の学習への興味関心を高めるため、ICTを活用した授業の充実を図るため、小学校2校のモデル校を中心にしている。 25年度⇒滝川第三小(タブレット端末)、江部乙小(デジタル教科書とICT機器) ③教職員研修・研究の充実・・・教職員が、専門職員として高い指導力と技能を身に付けるため、市独自の研修会を企画するとともに、各機関が開催する講座・研修への参加を促進した。 25年度⇒小中教職員の研修参加延人数231人(空知教育センター160人・道研等71人) 25年度⇒若手教員の授業力向上のため「パワーアップ研修会」等を年3回実施(参加人数65人)
課題	①指導主事の学校訪問指導の充実・・・校内研修会への指導主事の参加について検討が必要 ②ICTを活用した教職員の授業力の向上・・・基盤となるICT機器の整備を推進することが必要 ③教職員研修・研究の充実・・・本市の研修会では、参加者の増と時期など効果的な開催が必要

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ICT機器の活用については、特に小学校のモデル校では、教職員の活用が進んでいるため、子どもの興味関心に効果は出ている。これを市内全体に広がるよう推進したい。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 引き続き実施する。

事業の今後の方向性	今後も引き続き実施する。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅱ-5	施策名	安全安心な学校づくりの推進
------	-----	-----	---------------

目的 事業の	学校施設は、児童・生徒が一日の大半を過ごす学習、生活の場であるとともに、災害時には地域の避難場所でもあることから、安全で安心な学校教育環境の整備・充実を図る。
主要事業 今年度の	①小・中学校改築等施設整備の推進(開西中学校改築事業、滝川第三小学校改築事業、滝川第二小学校耐震補強・トイレ改修事業、西小学校耐震補強・トイレ改修事業) 事業費826,280千円 ②学校給食施設について親子方式による施設整備の推進
事業の実績と分析	①児童生徒の安全を守り良好な教育環境の確保を図るため学校施設の耐震化は責務であり、耐震補強工事や改修を行うことは急務である。改築事業の実施により安全で安心な学校施設の整備が図られた。 ②改築事業やトイレ改修工事の実施により、快適なトイレの整備が図られた。 ③滝川第二小学校並びに西小学校の耐震補強工事・トイレ改修工事については、平成26年度施工予定の工事を前倒しすることができた。 ④ICタグにより登下校情報の確認ができるため、利用者は新1年生を中心に増加し、目標を達成した。
課題	①耐震化が必要な学校は、改築工事中の滝川第三小学校を含めて4校有り、児童生徒の安全性の確保からも、早期の耐震化が必要である。平成26年度工事予定の、滝川第三小学校の改築工事、及び滝川第二小学校・西小学校の屋内体育館耐震補強工事、江陵中学校トイレ改修工事、江部乙小学校・江部乙中学校の非構造部材の耐震化工事については、前倒して財源を確保することができたことから、一日も早い工事が望まれる。 ②児童見守りシステムについては、利用者が増加する一方で、4年生以降も利用できるよう要望が多いことから、新年度に向けて利用学年の順次拡大に向けた予算確保が必要である。 ③給食設備の整備・改修については、滝川第三小学校以降の予算の確保に努め計画的に進めていく。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 計画通り改築事業を実施し、安全安心な学校施設の整備を進めることができた。滝川第二小学校及び西小学校の耐震補強・トイレ改修工事については、計画を前倒して整備を進める事ができた。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 児童生徒の安全性の確保から、学校施設の早期の耐震化及び給食施設の整備が必要であり、財源を確保しながら計画的に進めていく。

事業の今後の方向性	平成22年2月に策定した「滝川市小・中学校施設整備方針」及び平成23年12月に策定した「滝川市学校給食施設整備方針」に基づき、計画的・効率的に耐震化工事や改築・大規模改修と学校給食施設の整備を行い、平成27年度までに全小中学校施設の耐震化を完了する。 児童見守りシステムについては、引き続き対象学年の拡大に向けて協議を進める。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☒ スピードアップ ☐ 検証 ☐ 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅱ-6	施策名	市立高等学校の充実
------	-----	-----	-----------

事業の目的	「文武両道」の精神のもと、規律を重んじる校風を高め、地域の期待に応える高校教育を推進するとともに、時代の変化に対応した市立高校の将来を展望したビジョンを策定し、地域や日本、世界に貢献する人材の育成を図る。
主要事業 今年度の	①英語教育及び国際理解教育の推進 ②キャリア教育の充実 ③教育環境の整備・充実
事業の実績と分析	①英語教育及び国際理解教育の推進…文部科学省の研究指定(2年連続)、全ての授業をオールイングリッシュで実施、異文化理解のための講演会・交流会の実施、外国語指導助手(ALT)の配置、米国ロングメドウ高校への短期留学の実施及びスウェーデン留学生の受け入れ、滝西・英語教育改善セミナーの開催等[GTECの校内平均スコア(479.6 過去最高)や実用英語検定の合格者数(H25卒業者2級30名、準2級82名)などで、生徒の英語力の伸長状況を定期的に把握している。] ②キャリア教育の充実…3年間を見通した計画的なキャリア教育の実施、ガイダンス機能の強化・充実、上級学校の体験学習やインターンシップの参加・実施等[国公立大学への合格者数や就職決定率に効果が反映されている。] ③教育環境の整備・充実…格技場床改修及び体育館バスケットゴール改修工事、ワープロ室PC機器更新、新教育課程による物理の実験用教材の購入等[緊急・優先度を考慮して改修・整備している。]
課題	・施設・設備や教材・教具等の改修・整備が滞っているために教育活動等に支障を生じている。 ・西高の特色である英語・国際理解教育の推進にALTの増員が必要である。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 国立大学への合格者数が過去最多の28名になるとともに、就職決定率が4年連続で100%になっているほか、英語教育におけるGTECの成績・結果が3年連続で全国平均スコアを上回るなど、期待どおりの効果を上げていると考える。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 今後ともこれまで同様な施策効果を上げていくためには、施設・設備や教材・教具等の改修・整備を計画的に進める必要がある。
A	

事業の今後の方向性	市立高等学校は、学習指導と生徒指導の両面について充実した教育活動を行っており、進学・就職の進路結果や部活動の成績結果等に顕著な成果が見られる。全国的にも注目されている英語・国際理解教育や先進的な商業・ビジネス教育を中心に、活気ある学校づくりを行い、選ばれる高校をめざす。また、入学者定員を充足するためにも、施設・設備や教材・教具等の改修・整備など、計画的に行いながら、事業の継続・充実を図っていくことが必要である。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅱ-7	施策名	特色と魅力のある学校づくりの推進
------	-----	-----	------------------

事業の目的	学校独自の創意工夫に満ちた教育活動を推進し、特色や魅力ある学校づくりを進めます。
主要事業	①学校の魅力づくりの推進
事業の実績と分析	①学校の魅力づくり事業の推進・・・学校の教職員や児童生徒による創意工夫のある教育活動に対して、補助金を交付して、学校の特色や子どもたちに愛校心が育つよう推進した。 25年度⇒魅力づくり事業予算100万円を運用して、各校の活動を支援した。 (東小:音楽活動、江部乙中:観光大使活動、第三小:ICT活用授業等)
課題	①学校の魅力づくり事業の推進・・・各学校の魅力づくり事業の実施内容のPRが積極的に行われるよう点検するとともに、保護者からの評価項目の対象とするよう取り組む必要がある。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 各校では、プレゼンして事業認定うける仕組みにしたことから、教職員間の協調性や子どもの要望に応える企画・立案が多くみられた。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 事業期間は、当初3年間の第1次計画としたことから、この間の評価検証が必要である。

事業の今後の方向性	教職員や児童生徒の創意工夫した特色ある教育活動を支援し事業の充実を図りたい。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅲ-8	施策名	特別支援教育の推進
------	-----	-----	-----------

目的	障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組みを支援するとともに、学校生活や学習上の困難を改善し克服するため、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに対応した、適切な指導を実施します。
主要事業	①個に応じた支援の充実 ②通級指導教室の充実
事業の実績と分析	①個に応じた支援の充実・・・個別の支援を必要とする児童生徒に対して、適切な教育支援を計画的に実施し、その記録を保護者の委任を受けて作成し、幼児期から学業期までの接続を図ることが出来た。また、障がいのある子等の支援として「教育支援員」や「学びサポーター」を配置して、安定した学校生活を送ることの支援に成果があった。 25年度⇒教育支援員6名配置 ②通級指導教室の充実・・・ことばやコミュニケーションに課題のある児童生徒の特別な教育を行う教室として、市内3校に拠点として開設し、自立支援の充実を図った。 （通級者第二小15名・第三小34名・明苑中・19名）
課題	①個に応じた支援の充実・・・「個別の教育支援計画」の作成の目的や活用について、保護者に説明し、さらに広める必要がある。また、すべての教員が本計画の重要性について研修する機会を確保しなければならない。 ②通級指導教室の充実・・・通級設置校に通う児童生徒の負担軽減から、設置条件が満たせば増設が必要である。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 学校生活の支援や通常学級との交流学习など、子どもの教育的ニーズに応えることが出来た。
B	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 「個別の教育支援計画」の活用と効果に関する保護者の理解が深まるよう取り組むことが必要である。

事業の今後の方向性	個別の支援のいっそうの充実を図り、事業を推進したい。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
------------------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	Ⅲ-9	施策名	不登校等問題行動のある児童生徒への支援の充実
------	-----	-----	------------------------

目的 事業の	不登校や学校になじめない児童生徒の学校・学級復帰を実現するため、登校への意欲化や基本的な生活習慣の見直しなどの支援を行い、自立心を持たせ、自信の回復を目指す指導や教育相談の充実を図ります。
主要 事業 今年度の	①適応指導教室運営の充実 ②教育相談体制の充実
事業の実績と分析	①適応指導教室の充実・・・個別の実態に即した学習指導やコミュニケーション力の育成が図れた。また、支援センターの機能や周辺環境を活かした体育活動・調理活動等多様な体験活動が実施でき、活動の充実が図れた。 ②教育相談体制の充実・・・支援センター内に専用の相談室を設置したことにより、関係する保護者との教育相談や関係学校の担任との打ち合わせなど効果的に活用できた。また、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーと連携した教育相談も可能となり、きめ細やかな相談体制の充実が図れた。
課題	本市の児童生徒の不登校者数のうち、適応指導教室への通級割合は10%程度であり、不登校の多くは自宅に引きこもる状態である。このことから教育支援課と学校が連携し、当該児童生徒への効果的な対応が課題である。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 適応指導教室の児童生徒の学校復帰については、完全には実現できず課題があるものの、学校行事やテストの際の登校ができるようになり、自立に向けてのきっかけとして効果があった。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 不登校児童生徒の未然防止のための、学校で初期の段階から保護者との情報共有を強化する。

事業の今後の方向性	不登校教室の受け入れを近隣市町に拡大したことから、連携した対応を展開し、指導支援内容の充実を目指す。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピートアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	IV-10	施策名	地域の教育力を活用した家庭・学校への支援の充実
------	-------	-----	-------------------------

事業の目的	学校、家庭、地域が協力して子どもを育てる体制を整えるため、学校の教育活動における地域との関わりを深めるとともに、家庭や地域での生活を円満で健全に過ごすことができるよう支援します。
主要事業 今年度の	①学校支援地域本部事業の充実
事業の実績と分析	①学校支援地域本部事業の充実・・・学校の教育活動に、地域人材がボランティアとして参画し、技術や技能を提供していただき、そのことを通じて教職員や子どもたちとの絆が深まり、効果的な学校を展開できた。 25年度→水泳学習授業、スキー学習授業、夏休み学習相談、田植え等農業体験等
課題	①学校支援地域本部事業・・・ボランティア人材の確保を確実なものにするため、個人や団体とのつながりを十分に図る必要がある。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 学校要望と人材確保が合致して事業が行われ、地域人材と教職員が協力して、子どもの育みを支える活動が出来た。中学校部活の技術支援は、事業化を中断したため延べ人数の減少となった。なお、支援者と部活顧問との連携は継続しており、成果の継続は可能である。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 引き続き実施する。
B	

事業の今後の方向性	地域人材の確保に努め、学校の教育活動の充実を図りたい。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	IV-11	施策名	子どもに関わる施策や活動との連携
------	-------	-----	------------------

目的 事業的	幼児期の保育に関わる関係機関や子育て支援施策を実施している本市の行政部門と連携を深め、発達状況の実態把握と情報共有を緊密に行い、子どもやその保護者への適切な支援を推進します。
主要事業 今年度の	①幼稚園・保育所・小学校の連携の推進 ②子育て支援施策との連携
事業の実績と分析	①幼稚園・保育所・小学校の連携の推進・・・幼児の小学校への円滑な接続と個別の情報交換の機会として「小学校入学に係る引き継ぎ会」を実施し、連携を深めた。参加人数39人 ②子育て支援施策との連携・・・子どもの養育や発達支援に関わる業務を行う、市長部局との連携を深め、ケース会議やケースの家庭訪問など個別の実態に応じた支援を行った。 ③「幼稚園・保育所・小学校連携推進研修会」を開催して、連携や情報交換の内容についても研修を深めた。
課題	①幼稚園・保育所・小学校の連携の推進・・・発達に課題のある子の情報交換と合わせて支援内容についても協議し、その改善を図り就学につなげる体制を充実させる。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 個別の子どもとその家庭への支援や助言を、学校と市の関係部局が連携して取り組むことで、家庭環境や学校生活に安定を取り戻したケースがあり、効果を上げている。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 引き続き実施する。

事業の今後の方向性	幼稚園・保育所等との連携を深める取組みの充実を図りたい。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	--

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-12	施策名	「いつでも・どこでも・だれでも」学べる生涯学習の推進
------	------	-----	----------------------------

目的 事業の	「いつでも・どこでも・だれでも」が学び、成果を生かした生涯学習を推進するため、生涯学習情報をインターネット等を通じて発信するとともに、学びの仲間づくりや成果発表の機会の拡充など、子どもから高齢者まで生涯各期の生き生きとした生涯学習活動を推進します。
主要 事業 今年度の	①「子どもの育成」をテーマとした地域の仲間づくりの推進
事業の実績と分析	[事業の分析] 西地区青少年育成会は3泊4日の通学合宿、中地区青少年育成会は第一小学校児童との集団下校訓練を実施した。全市的に同じ事業を行うのではなく、各地区の特徴を生かした事業を目指したことで、それぞれの地域資源の価値を住民も教育委員会も気づくことができた。 [効果の検証] 「子どもの育成」というテーマは、各世代をつなげやすく、理解も得られやすいことがわかった。各事業を通じて、地域住民が持っている「子どもを守っていききたい」という思いが、学校や保護者に伝わっている様子がアンケートなどでも見られ、「子どもの育成」をテーマにした事業展開は、地域の仲間づくりを進めるために有効であると考えます。
課題	事業を実施するまでの準備期間が、仲間づくりに最も大切な時間である。西地区通学合宿は、準備期間が短く、事業に向けての思いに差があった。目的と目指すべき形を、参加する地域住民が共有できるよう、準備期間中の仲間づくりを丁寧に進めていきたい。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 成果・課題がはっきりとわかり、今後の青少年育成会の進め方も見えてきたので、期待どおりの効果があった。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 地域の特性を生かした活動を通じて、地域の仲間づくりを進めていく目的の達成ため、次年度については事業の見直しはない。

事業の今後の方向性	今年は可能性の検証の年であったが、青少年育成会を核とした地域づくりが期待できることから、次年度以降は、市内7地区青少年育成会が、「子どもの育成」をテーマに地域の特性を生かした事業を通じて、地域コミュニティの強化につながるよう支援をしていく。また、総合福祉センターという「場」をなくした後の生涯学習活動について検証しつつ、今後の方向性について継続検討していく。 ☒ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-13	施策名	健康な心と体を養うスポーツ活動の推進
------	------	-----	--------------------

事業の 目的	生涯にわたり健康であるため、子どものころから心と体を養うスポーツに親しむとともに、スポーツ大会を通じて人々が集まり交流できる環境づくりを推進します。
主要事業 今年度の	①新コースでの「たきかわコスモスマラソン」の開催による市民参加者数の拡大及び市民の体力向上を図る。 ②北海道日本ハムファイターズと東京ヤクルトスワローズのイースタンリーグ戦を招致し、身近にプロの試合を観戦することで青少年の夢や希望を育む機会とする。
事業の実績と分析	①コスモスマラソンは、滝の川運動公園をスタートし国道12号を縦断し、石狩川河川敷を走る新コースでの実施となった。荒天にもかかわらず過去最高の参加人数(参加者数:1,862人、申込者数:2,082人)となり、また、ランナーのアンケートからは「コースが走りやすかった」「ボランティアの対応がよかった」など満足度も高かった。 ②イースタンリーグ戦は3,582人が観戦、日ハム選手による少年野球教室は小学生21人が参加。北海道を拠点とする日ハム選手たちの活躍を間近に見ることができ、市民のスポーツへの関心が高まった。
課題	①「たきかわコスモスマラソン」は、コースの一部で選手が混雑するところがあり、事故防止のためいくつかの箇所での見直しが必要。また、ボランティアからも運営上の課題が寄せられており、選手、ボランティアともに「参加してよかった」という市民マラソンにしていきたい。 ②プロスポーツの招致については、機会があれば今後も積極的に進めていきたい。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか ①コスモスマラソンは、悪天候にもかかわらずランナーのアンケート結果からはおおむね評価をいただいたが、スタッフのアンケート結果からは課題の多い大会となった。 ②イースタンリーグの招致は少年たちの野球教室もあり、プロスポーツを身近に感じられ評価できる。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか コスモスマラソンについては、アンケートの結果を分析し、コースやスタッフの現場対応について見直しの必要がある。

事業の今後の方向性	コスモスマラソンは、ランナーの安全を確保するとともに、市民がコスモスマラソンの実施に理解を示してもらえよう課題を解決するとともに、市民がランナーとして、またボランティアとして数多く参加できる仕組みをつくる。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☒ 検証 ☒ 継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-14	施策名	文化・芸術活動の創造・育成支援
------	------	-----	-----------------

目的	市民による優れた芸術鑑賞事業や個性的な文化創造事業のほか、これらをけん引する人材育成事業を支援し、地域の文化力を原動力としたまちづくりを目指します。
主要事業	①地域文化活動を支える市民との協働による鑑賞事業などの実施 ②学校を舞台とした芸術鑑賞や体験などのアウトリーチ事業の拡充
事業の実績と分析	①市民文化祭は、展示会場を総合福祉センターから文化センター・中央児童センターと芸能会場周辺に集約し、開催日も同日にしたことから、集客数も延びた。 ②東京プラススタイルは、開西中学校吹奏楽部でアウトリーチを行い、翌日にはたきかわホールで共演。プロとの共演により、生徒の意欲が向上した。また、滝川第一小学校で滝川三曲会による和楽器体験を行った。児童の体験機会としてもよかったが、教える側の市民に達成感があった。
課題	①市民文化祭は、出品者が減少している。市民の作品発表の場として活用してもらうよう新たな仕組みが必要。 ②来滝するプロのアーティストや、芸術文化活動を積極的に行う市民と学校を結び、アウトリーチ事業を継続していく。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 市民文化祭は、会場及び日程の集約したことで、観覧しやすかったという意見が多く期待どおりの効果があった。鑑賞事業については、数値的には下がっているが、公演目的は概ね達成することができた。 芸術家の学校訪問は、児童生徒も出演者も満足度が高く効果があった。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 優れた鑑賞事業の実施は継続し、また市民が「参加したくなる」工夫をする。 芸術家等の学校訪問は継続して実施する。

事業の今後の方向性	地方都市でも質の高い文化・芸術活動に触れられる機会の提供を継続していく。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
------------------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-15	施策名	文化財の保護・活用の推進
------	------	-----	--------------

事業の目的	市民の財産である指定文化財を保存するとともに、それらを活用した講演会などの事業に取り組むなど、後世に文化財の魅力を伝える語り部の育成に取り組めます。
今年度の主要事業	北海道人造石油株式会社滝川工場の市文化財の指定
事業の実績と分析	平成25年3月、公益社団法人日本化学会「化学遺産」の認定を受け、指定文化財の可否について文化財保護審議会に諮問し、可であるとの答申をいただいた。これを受け、12月に8番目の市文化財に指定した。関連して、美術自然史館で特別展を開催し、多くの方に興味をもっていただき、人石についての歴史的価値を知っていただく機会となった。
課題	指定文化財である華月館、屯田兵屋、牧羊用石造りサイロなど、郷土学習でも活用してもらえるよう工夫が必要。保存だけではなく、活用する方法もしっかり組み立てなくてはならない(華月館は、これまで市民会館の指定管理にあわせて管理していたため、ほぼ毎日開館していたが、平成25年度から直営となり、5月から9月まで月1回の公開となった)。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 市文化財に指定したことにより、市民の人石資料への関心も高まり、期待どおりの効果があった。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 今後も郷土資料に光をあて、その価値を評価する取り組みを進めていくとともに、活用方法について考えたい。

事業の今後の方向性	今後も「まちの財産」が消失しないよう、文化財として価値のある資料に光をあて、保存・普及していく。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☐ スピートアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-16	施策名	図書館活動の充実
------	------	-----	----------

目的	事業の	生涯学習の拠点として、誰もが気軽に立ち寄ることができ、市民の暮らしの課題解決に役立つ便利な図書館を目指し、蔵書及び読書環境の充実を図る。また、読書を通じた豊かな想像力を育むため、学校などと連携しながら、子どもの読書活動を支援する。
主要事業	今年度の	○生涯学習拠点としての図書館の充実 ○子どもの読書活動の推進
事業の実績と分析		①入館者は、前年の106,443人と比較して161%と増加した。市民1人当たりの蔵書冊数も、全国4～6万人市平均には及ばないものの、3.4冊と徐々に充足されつつある。貸出冊数は前年度と比較して微増にとどまっているが、入館者は順調に増えていることから、交通アクセスの改善とともに、蔵書の充実、企画展示・市役所各課との連携展示・イベントなどソフト事業の積極的な実施により「便利で役立つ立ち寄り型図書館」が認知・評価されたと考えられる。 ②読書アルバムは目標を下回ったものの、図書館学級文庫では年間40回の実施で17,591冊(前年比+8.4%)・1人当たり5.9冊の貸出を行ったほか、調べ学習用図書の貸出し、読み聞かせやブックトーク等の授業支援、学校図書館の環境整備支援等の取組みにより、児童・生徒の読書機会が増加した。これらの積極的な取り組みが評価され、「平成25年度子どもの読書活動優秀実践図書館・文部科学大臣表彰」を受賞した。また、H26.3に「滝川市子どもの読書活動推進計画(H26-H30)」を策定し、滝川市の子どもの読書環境整備に取り組む基本的方向と具体的方策を明らかにした。
課題		①市民1人当たり蔵書冊数は、やや改善されたものの、全国同規模の市立図書館の87%である。蔵書は図書館の最も重要な基盤であり、入館者数や貸出冊数、回転率の維持・向上には蔵書の充実が不可欠なことから、今後も図書購入費の増額等、継続的な取組みが必要である。 ②子どもの読書活動の推進については、学校をはじめ地域・幼稚園・保育所等との連携をより密にしながら、推進計画の具体的方策の実現を図る必要がある。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 旧図書館及び前年度と比較すると、数値は伸びており、立ち寄り型図書館としての評価は定着してきたものと考えられる。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 地域の情報拠点として、より市民に役立つ図書館を目指すためにも、基本的な資産である蔵書の充実を図りながら、利用者視点に立った各種サービス強化と連携を深めながら各種ソフト事業展開や子どもの読書活動推進を行う必要がある。

事業の今後の方向性	立ち寄り型の便利で使いやすい図書館として、図書館が果たすべき役割を常に検証しつつ、利用者ニーズに応えた蔵書の充実と、「連携」をキーワードに、より親しまれる地域の情報拠点を目指す。また、子どもの読書活動推進も計画に基づき関係各所と連携して取り組む。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☒ 質的向上 ☐ スピードアップ ☐ 検証 ☒ 継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-17	施策名	博物館活動の充実
------	------	-----	----------

目的 事業の	道内の博物館や美術館と連携し、様々な特別展や個性豊かな普及事業を開催するとともに、タキカワカイギウや岩橋英遠など収蔵資料の研究や関連資料の収集を進め、地域博物館としての役割を充実します。
主要事業 今年度の	①特別展の開催「“虹”を旅する～生誕110年 岩橋英遠展」「滝川人造石油物語」「フィールドワーク@美術館」「夏休み！がっちり描きましょう」 事業費 4,375千円 ②普及事業や教育普及活動の実施「月イチリカ室」「わくわくサイエンス」「出前講座」など 事業費 551千円 ③岩橋ふるさと北辰振興会の活動支援と北辰の森・桜並木整備事業の推進 ④年間パスポートの利便性の向上 ⑤北海道人造石油株式会社滝川工場に関する資料の市指定文化財の指定(H25.12.1付け)
事業の実績と分析	・入館者数としては、前年比6,551人の増であった。大きな要因としては、生誕110年を記念し開催した岩橋英遠展が前年同時期に開催した企画展より4,214人の増であったことで、こども科学館の入館者も増加した結果となった。また、年間パスポートの有効期間を購入日から1年間とし、利用施設に郷土館を加える改正を行い利用者の利便性を図ったことなどが考えられる。 ・学生などの団体が増えた要因は、市内の小中学生については、岩橋英遠展の観覧を授業の一環として受け入れたことや、他市の小中学生については、B&Gのカヌーと合わせた体験型施設としての受入が学校や旅行会社に認知されてきた効果だと考えられる。 ・また、普及事業については、館のスタッフが学校や児童館に出向いて実験・工作をする、ちいさなはくぶつかん(出前講座)の参加者が1,069人(前年252人)と大きく伸びた。今後も来館につながるこの事業を積極的に展開し館の魅力を伝えて行きたい。 ＊出前講座の参加者数は入館者数には含まない
課題	・開館30年となる平成28年度に向け、常設展示室も含めたりリニューアルの検討 ・学校との連携強化をより一層図り、地域の教育施設としての更なる活用を図りたい

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 企画展(前年比5,779人増)や普及事業(前年比117人増)の来館(参加)者数は増えたことにより、結果的に総入館者数も増加となりソフト面での効果が感じられた。
A	評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要があるか 今後も魅力ある企画展や普及事業を継続して実施し、入館者の増に結びつける。あわせて博物館の使命である収集・保存・調査研究・展示にも取り組んで行きたい。

事業の今後の方向性	①文化勲章受章者である日本画家・岩橋英遠芸術と北海道の天然記念物であるタキカワカイギウを滝川市の歴史的な文化を代表するシンボリックな存在として発信し続けていく。 ②こども科学館においては、今後も「月イチリカ室」など身近な科学の実験を通じて子ども達の科学に対する関心や興味を広げる事業展開を図る。 ③ふるさと滝川を「記憶」し続ける方策として「岩橋英遠芸術の振興」「タキカワカイギウを核とした滝川海の再現」「市民ギャラリーの新設」などリニューアルに向けた検討を進めていく。 ■拡充 □縮小・統廃合 ■質的向上 □スピードアップ ■検証 ■継続
-----------	---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価に関する報告書

施策番号	V-18	施策名	社会教育施設の整備充実
------	------	-----	-------------

事業の 目的	市民の社会教育活動を支える施設を整備するとともに、今後の人口規模や利用状況に照らし合わせた社会教育施設の配置計画を策定し、継続した社会教育活動が進められる環境づくりに取り組みます。
主要事業 今年度の	①社会教育施設を含めた「滝川市公共施設マネジメント方針」の策定 ②総合福祉センターの閉館
事業の実績と分析	①社会教育施設を含めた公共施設マネジメント方針策定にむけての協議に参加し、今後の施設のあり方についての考え方をまとめた。 ②総合福祉センターについては、耐震化工事と大規模改修の費用として10億円が必要であることと、まちづくりセンターや駅前ひろばく・る・るなど、社会教育活動の代替施設が整備されていることから、ボイラー設備の老朽化による突発的な停止を避けるため、平成26年3月31日をもって廃止した。廃止にあたっては、利用者には4月に2回、入居者には個別での説明を行い、理解を得た。
課題	①社会教育施設の耐震化・大規模改修については、補助金など予算確保に努めながら作業を進めていく。 ②総合福祉センターの閉館により、市民の社会教育活動が停滞してしまうことのないよう、活動場所の情報提供など支援を行う。

評価シートによる判定	
総合評価 ランク	評価の視点1 期待どおりの効果があったか 社会教育施設のあり方についての方向付けができ、今後の整備充実のあり方が見えてきたことは評価できる。 評価の視点2 施策の目的を達成するため、事業見直し等の必要あるか 市が策定した公共施設マネジメント方針を基本にしながら、必要な社会教育施設の役割・機能を維持できる施設整備を今後も進めていく。
B	

事業の今後の 方向性	体育施設では青年体育センター・スポーツセンター、文化施設では、文化センターの耐震化の方針・スケジュールについて、スピードを上げて決定していく。 ☐ 拡充 ☐ 縮小・統廃合 ☐ 質的向上 ☒ スピードアップ ☐ 検証 ☐ 継続
---------------	--